

泗水杯争奪戦 ◆ GIII



菅原 晃
大分・85期



佐藤 友和
岩手・88期



川村 晃司
京都・85期

3年続けて真冬の開催となる四日市記念。冷え込みが厳しい季節ながら、それを吹き飛ばす豪華メンバーが集結する。激しいバトルで盛り上がること必至。地元記念連覇を目指すエース浅井康太とグランプリを制して名実共に競輪界の頂点に君臨する武田豊樹の対決が今シリーズ最大の焦点。浅井は落車後に臨んだ昨年の当記念で優勝。初の地元記念制覇をパーフェクトで達成して場内の声援に応えた。今年には連覇に向けて全力投球。練習を共にする柴崎俊光、坂口晃輔を連れて豪快スパートを決める。武田は年齢を重ねる毎に進化を続け、昨年の安定感を目を見張るものが、今回は共に関東を引っ張ってきた平原康多も参戦。ビッグレースで数々の連覇を決めてきたこの両者の絆は固く、前後はどちらでもがつちりと結束して結果を残す。この最強コンビの脇を固めるのは浦川尊明、岡田征陽。もう1人のS級S班は村上博幸。昨年は完全復活を印象付ける走りでもG1制覇にグランプリ準優勝。パワフルな仕掛けを見せる同郷の川村晃司とは連係実績抜群で、一気に先制の流れなら村上にチャンスは十分。実力はS班と遜色ない佐藤友和には一撃の魅力。混戦となれば一気の捲りで別線をひと飲みにするスピードの持ち主。力を付けてきた高橋陽介と同乗なら連係も視野に入れて。差し脚の切れ味なら大塚健一郎車群を縫って突っ込む鋭脚は見逃せない存在。同郷の菅原晃とのタッグで台頭を狙う。桐山敬太郎、福田知也の神奈川コンビが自在攻めで波乱を演出も。

昨年はずいぶん頂点を極めた。グランプリは後続を寄せ付けない圧勝劇。幹旋が止まり走れない時期がありながら獲得賞金が2億円を越えたのは、1年間通して完璧な走りを見せ続けた証。

完全に追われる立場となる今年だが、その強さに陰りはないだろう。相手に隙を与えない攻めは究極の域に。今シリーズも貫禄の走りでも優勝争いをリードするのは間違いなし。



武田 豊樹

茨城・88期

王者の貫禄見せる

4年連続でS級S班の座に君臨。誰もが認めるトップレーサーとしてその地位を築いた。安定感は屈指の存在。展開に応じてどの戦法でも高いレベルでこなす総合力は競輪界随一と言え

る。勝つために最善の方法を取り、どのレースでも常に好勝負を演じる。当然、四日市記念にける想いは相当。意外にも昨年初制覇。今年もこの地元記念からスタートダッシュを。



浅井 康太

三重・90期

譲れない地元記念

強気なスタイルで

今や西日本屈指の迫込み型として地位を築いた。落車、失格が常に付きまとうものの、それを恐れずわずかなコースでも突いてくる。四日市の長い直線は大塚の鋭脚が最大限に活かせる。どんな展開になっても一気強襲の魅力あり。



大塚 健一郎

大分・82期

一級品の鋭脚披露

全日本選抜で久々のG1優勝。過去にグランプリで頂点を極めた勝負強さがよみがえった。抜群の切れ味は一級品でチャンスが巡ってくれば確実にものにする。目標を得ればもちろん、自ら捌いてもタテ脚鋭く好勝負に持ち込む。

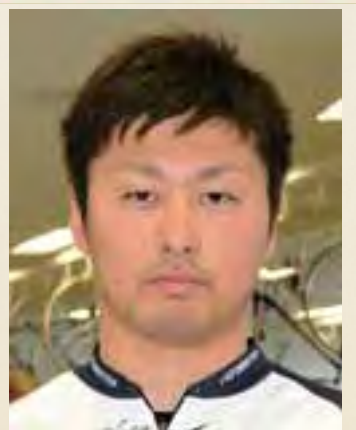


村上 博幸

京都・86期

縦横無尽に攻める

競輪祭で勝負強さを発揮。最後のチャンスをものにして、今年もS級S班の権利を手にした。競輪祭は武田豊樹の番手から、グランプリは先頭で武田の優勝に貢献とこの2人の結束は固い。今シリーズも両者の連係に注目集まる。



平原 康多

埼玉・87期